



## 石田 亜紀 Aki Ishida

株式会社ミキ・ツーリスト 東京本社営業本部中央ヨーロッパ担当 営業アシスタント  
(2002年3月 文学部卒業)

広い視野を持ったスペシャリストになりたい

### —現在の仕事内容は?

私たちの会社は、ランド・オペレーターといわれる業務を行なっています。ツアーを企画・販売してお客様を集めるのは旅行代理店。私たちはツアーを代理店から受注し、旅先のホテルやレストランの予約など各種手配を行ないます。いわば旅行の中身を作る仕事ですね。



営業アシスタントになってまだ半年。出勤して最初にする仕事は、海外の現地オフィスからメールが届くツアー中のトラブルチェックとその対応です。あとは、ツアーを受注するために代理店のエージェントさんと交渉したり、最近では私たちからツアーの提案をすることも多いですね。

トラブルがない日はないし、日程表にも出てこない細かい部分まで気を配り、常にアンテナを張っていないといけないので大変なときも…。でも、ツアーが成功して参加された方に喜んでいただいたり、エージェントさんから「すばらしい手配だった」と言われたときはやりがいを感じますね。

### —どんな広大生でしたか?

ダメ学生でした。何をしたいかわからないし、やりたいことも見つからない。時間だけがあって砂漠の中にいるみたいな感じ。仕事という場を得た今の方が充実していま

すね。4年間もあったのだから、専攻していたフランス文学を国の成り立ちや各地域の特徴といったバックグラウンドも含めてもっと勉強しておけばよかったと思います。知識があれば、手配も楽にできますし、個性的なツアーを提案できますから。

### —今後の目標は?

一生この旅行業界で働きたいと思っています。今後はもっと広い視野を持ち、経済全体の流れとからめて旅行業界の動きが読めるスペシャリストになりたいです。いつかは、ツアー企画から最後にお客様を日本にお迎えするところまで、自分でプロデュースするのが夢ですね。

### —広大生へのメッセージをお願いします。

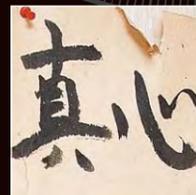
今やりたいことがなくて就職に悩んでいる人も、そこまで焦らなくていいんじゃないかな。私も、最初から旅行業界を希望していたわけではなく、サービス業で転勤がなくて…と条件から攻めていき、今の会社に就職しました。OB&OG訪問はした方がいいですよ！ 学生同士の口コミ情報やイメージと、実際に働いている人の感想にはズレがあるんです。学生から見たらキラキラしている職場でも実は悲惨だったり、逆に、大変そうに見えても楽しくてやりがいのある仕事だったり。現場の人から直接話を聞くことは、かなり役に立ちますよ。



社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身に付けておくべきことはまたまたプライベートの話まで。私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

# 羅針盤

# OB&OG紹介



### —なぜお好み焼き屋を、それも西条にオープンしたのですか?

卒業間近になってもやりたいことが見つからなくてね。フリーターになっても見つかるとは思えなくて、それなら1度社会を経験しようと思い、出版社に就職したんだ。でも、入社1年目で足を骨折。仕事に支障は出るし、家にもストレスが溜まるばかり。そのとき、



休日に好きなことをやってきた自分は「仕事は生活のため」と割り切っていることに気がついた。それなら人生の大半を占める仕事で、やりたいことをしようと思って、頭に浮かんだのがお好み焼き屋。こんなにバシッと決断できたのは珍しいよ。実家の愛知に出店する案もあったけど、学生時代の友だちの存在が大きかった。個性は強いけれど、お互いの長所を伸ばし合える仲間。卒業後も集まれる場所を作りたくて、西条に決めたんだった。

### —サラリーマン時代と比べて、なにか変わりましたか?

当時は、これは正しいと思うことで上司がだめと言ったら従わないといけない。自分ではどうにもならないことがあった。今は、自由にできるから人間関係で悩む必要がなくなった。でも、その分すべて自分に返ってくる。自営業だと素直に自分の心と向き合えるから、仕事を通して本当の自分が分かってきたね。

### —お店のポリシーを教えてください!



人と人がつながる空間にしたい。ご飯を食べるだけの場所はたくさんあるから、自分にしかできないことをしたい。社会人になると、全然違う分野の人との人間関係が広がりにくいと思う。この店で新たな出会いを提供できたら嬉しいな。ここに来るお客さんには「人が好きな人」という共通点がある。きっかけを作ると、見知らぬお客さん同士が楽しそうにおしゃべりを始める。それを見るのが最高に楽しいね。ポリシーは3つ! いつも穏やか、余裕を持つ、どんな状況

でも積極的に楽しむ。悟りの境地みたいな感じでいれたらいいな。世の中の人の営みが透き通って見えるような。

### —お店をやってよかったなと思うことは?

開店1周年のときに、お客さんたちがお祝いのメッセージを撮影したビデオをプレゼントしてくれたんです。自分がいないところでみんなが集まって、一緒にお祝いしてくれた。ここを大切な場所だと思って集まってくれていることを実感し、本当にやって良かったなって思ったよ。



## 野々川 仁 Hitoshi Nonogawa

お好み焼き屋「真心タイムズ」経営 (2003年12月1日開店)  
住所: 東広島市西条町西条東909-5 TEL: 082-422-5505  
(2002年3月 総合科学部卒業)

みんなが集まれる空間を。人生で後悔したことは一度もない。

## 取材を終えて



「日々の仕事が充実していて楽しい!」と生き生きと話される表情が魅力的だった石田先輩。落ち着いていてやわらかい口調ながらも、仕事に対する熱意が感じられました。英会話を習ったり登山をしたりプライベートも楽しんでおられるとのこと。自分の役割をこなすことにやりがいを感じておられる先輩にお会いし、社会人として働くことに、よりプラスなイメージを持つことができました。

取材・記事 / 総合科学研究科M1年 夫津木 芳美



野々川さんはすごく人が好きな人。仕事を楽しんで仕方ないという熱い気持ちが伝わってきました。「思ったらすぐ行動。今まで、ただ考えるだけじゃなくて、好きなことをなんでもやってきているから、人生を振り返っても後悔したことってないんですよ」と言い切っていた仁さんはかっこよかったですね。取材後に食べさせてもらったお好み焼きも、とても美味しかったです。

取材・記事 / 総合科学部3年 河口 真理子